

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (百八十八)

第七章 「アラブの春」―はかない夢のひと時 (二十一)

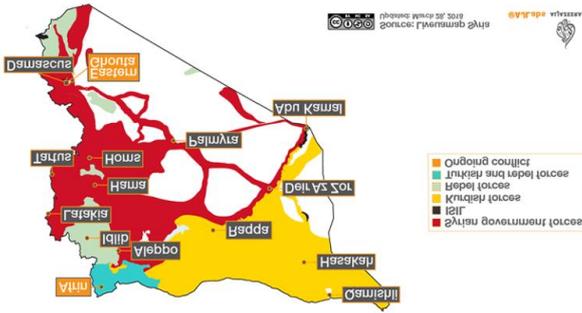
百八十八 シリア情勢…敵の敵は味方か敵か? (五―五)

しかし最近になって諸外国の共通目標がIS (イスラム国) の壊滅に絞られた。これに対して劣勢に立ったIS (イスラム国) が欧米やロシアに住むムスリム (イスラーム教徒) に自爆テロを呼びかけている。さらにIS戦闘員が自国に戻ってテロ活動を行う恐れも大きい。前者はホームグロウン・テロ、即ち「ご当地テロ」であり、後者は「里帰りテロ」ということになる。これら「ご当地テロ」と「里帰りテロ」を防ぐためにもできるだけ早くISを壊滅しなければならぬ。そのISに今対抗できるのはシリア政府の正規軍とシリア民主軍のクルド人部隊しかない。ただクルド人部隊は米露トルコいずれも支援する立場にない。

結局奇妙なことに米国など欧米諸国は空爆でIS (イスラム国) の拠点を叩くだけで、アサド政権退陣の要求はひとまず棚上げし、シリア政府とロシアの軍事行動を黙認することになる。シリア派のアサド政権が最大の敵であり、消去法で已む無くリベラル反政府勢力のシリア民主軍を応援してきたサウジアラビアなど湾岸諸国は米国からはしごを外された格好である。

敵の敵は味方か、それとも別の敵か? 混迷深まるシリア情勢は先の見えない中東情勢その

ものと言えよう。



(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyai@gmail.com